

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none">生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業・公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。生徒には入学当初よりオリエンテーションなどとおして家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。	
達成目標	①授業力の向上 ア 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合 イ 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合	②1、2年の1日あたりの平均学習時間（平日休日を合わせた平均） ア 平均学習時間 イ 平均学習時間が2時間を超える生徒の割合
	ア、イともに 80%以上	ア 3時間以上 イ 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。評価実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。	<ul style="list-style-type: none">「生活状況調査」を実施し、担任が生徒の生活実態（予習→授業→復習の黄金のサイクルができていないか）を把握し、効果的な面接指導を行う。調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方について工夫する。

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	インターネット関連の正しい利用について	
現 状	<ul style="list-style-type: none">ほとんどの生徒がスマートフォン等を所有している現在、インターネットを利用したSNSは、次々と新しいアプリ等も登場し、便利になっている反面、相手の顔が見えないということから犯罪につながったり、本人の意思とは別に犯罪に巻き込まれたりするという危険を伴っている。しかし、禁止することは不可能であり、本校では情報の授業や警察署、電話会社などによる安全教室等を開催し、正しい利用の知識と使用上のモラル、実践力を養うよう指導している。本校では、スマートフォンの持ち込みは許可しているが、校地内での使用は禁止している。校内では電源を切って鞆や鍵付きロッカーに保管する規定になっているが、お昼時間や部室などでこっそり使用している生徒がおり、発見次第その都度指導を行っている。個人情報保護に関する知識やマナーが希薄な生徒が少なくない。	
達成目標	①スマートフォン・携帯電話等に関する規定違反の件数 年間20件以下	②インターネット関連を正しく利用したと答える生徒の割合 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">健全な高校生活を送るための基本的な生活習慣の確立を考えさせるとともに、SNS等の利用方法や危険性を指導し、自己と他者の安全確保のための個人情報保護の概念を理解させる。1学年では、「スマホ・ケータイ安全利用教室」やクラス討論を行う中で、正しい利用に関するクラス内ルールを決めたり、自分の使い方を考えさせたりして、高校生として自主的、自律的な態度でスマホを利用していく強い心構えを構築させる。2学年の「防犯教室」や全校集会等において、SNSに関するトラブルの現状とそれらを避けるために必要な情報を伝え、安全な利用方法を再確認させる。PTA 総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。生徒へのアンケートなどを通して、現状と対策を考える。	

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。 	
達成目標	①第1志望大学合格率 (出願時の第1志望合格者の割合)	②早期の進路目標の設定 (志望大学・学部・学科などの設定)
	合格率 65%以上	2年次終了時で生徒の割合 85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・「進路探究」や「生徒希望選択研修」などを通して進路を考えさせる。 ・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 	

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の学校行事の運営 ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化意識の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の学校行事が少なくなる中で、その自主性やリーダー的資質を養う場が少なくなってきた。 ・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動においては率先して活動を行う生徒も多いが、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 ・教室内の机近辺の荷物が乱雑に置かれている。
達成目標	①学校行事に主体的に参加し協力したことについて、達成感を抱いた生徒の割合	③保健委員による清掃点検などとおした美化意識の向上および生徒個々の学習環境を良くしようとする意識の向上
	②学習と部活動の両立を図りながら、積極的に部活動に取り組んだことについて、達成感を抱いた生徒の割合	
	①②ともに 80%以上	保健委員による清掃点検 10回/年
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主体となって、生徒がより積極的に学校行事に参加できるように、昨年度の実践をふまえて、個々の行事を改善する。 ・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間の有効活用を促すことによって、部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間中の放課後、保健委員が教室を巡回し、美化・整頓がなされているか点検する。 ・授業終了後、生徒個々で身の周りの整理整頓や机・椅子の整列を各自行うとともに、日直や保健委員が翌日の授業に向け、教室全体の整備を行い下校する。

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン -5-

重点項目	その他	
重点課題	図書貸し出し冊数の増加	生徒希望選択研修の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣が身につけていない生徒が多い。昼休みや放課後に図書利用で来館する生徒は一部の生徒に固定しつつある。時期によって学習室として閲覧室を使う生徒が多くなる。2学期以降は、3年生が小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会も増える。 ・教科や研修で利用する場合も、特定の教科や研修に限られている。 ・保護者対象の図書館開放を年数回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意欲・関心を高めることを目的とし、今年度は9回目の実施となる。2学年の生徒が対象で、生徒は自分の進路や関心に応じて5つのコースの中から希望する研修を選択して参加する。 ・令和元年度の実施では、各研修の目的・目標を達成することができたという割合は97%で、設定目標を大きく超えた。
達成目標	①全学年の平均貸し出し冊数 3冊以上	②各研修の目的や目標を達成し、進路に対する意欲・関心が高まったという割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。 ・2年次に実施される生徒希望選択研修の事前研修での利用を促す。 ・HR・「総合的な探究(学習)の時間」での活用を促す。 ・生徒の興味・関心をとらえた企画展示や広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。 ・小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 ・保護者の図書館利用を促す。 ・教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらえる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路・適正などを勘案し、最適な研修を選択・受講させる。 ・事前研修の充実を図り、生徒が自主的・主体的に取り組めるように、個々人の意識を高める。 ・研修後にまとめ集を作成したり、プレゼンテーションを行ったりすることで、他者と協働して、収集した情報を、整理し、まとめ、発信する技能を高める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)